

「第30回 くまとり子育てと保育を考える集い」を終えて。

田丸 あけみ

アトムが無認可時代から行ってきたこの集いも、今回で30回目を迎えました。

これまで、子育てに関するテーマを主に取り上げてきましたが、昨年は、“働くこと”に関する内容を取り上げ、今年も昨年に引き続き「スキルアップの道しるべを探る」というテーマで行いました。

当日は、現役保護者を含め30名の参加がありました。千葉県や奈良県、和歌山県からの参加もあり、役場関係・学生・教諭・小児科の先生・学童関係・大学院生・中学生・元保護者・現保護者と様々な方が集い、2時間は、あっという間に過ぎていきました。

最初に実行委員長の山本美穂保が代表で挨拶をしました。挨拶文の内容を紹介します。

「くまとり子育てと保育を考えるつどいは、今回で30回目を迎えました。昨年は保育士や教師を目指す学生を対象に、保育所の職場作り、職員同士の関係づくりをテーマに行い、ご好評を頂きました。今回は、その第二弾として、学生と専門職の方々を対象にし、「スキルアップと自己肯定感」をテーマにしました。

今回のつどいのキャッチフレーズでもある“自分を見つめ、自分を知る”ということは、一見とても簡単なように思います。しかし、そこにはそれぞれ自分の壁に直面し、それを越えようとするための努力や葛藤があるものです。場所は違えど、そんな経験を参加して下さった皆さんと語り合うことで、「スキルアップと自己肯定感について」考え合いたいと思っています。この会が、私達職員も含め、参加して下さった皆さんにとっても、実りあるものになると嬉しいです。」

という挨拶から始まり、次に職員の鳥羽、田倉、吉尾がテーマに沿った内容で、それぞれの体験談を発表しました。そして残りの時間は、市原理事長の司会進行で、円になり、参加者全員で質問や感想など意見交流しました。「人に褒められる事が、自己肯定感につながると思う」という意見や、「努力すればなんとかなると思っていたが、そうではないこともあると今日学んだ。努力してもどうにもならない事がある時は、周りの人の力を借りる事も必要だと思った」「こんな場こそ、スキルアップに繋がると思う。それに、嫌な事だが指摘される事も大事。それを受け止めて向上に繋げる事が大切だと思う」「自分も若い時はしんどかった、でも、若い時代は、それでいいと思った。もがきながら自分見つめを繰り返しその時代を経て、自己肯定感につながっていくと思う」など、様々な考えを出し合う場となりました。参加者の意見を聞きながら私は主に、自己肯定感について考えていました。自己肯定感は、どのように育まれていくのか？

自己肯定感の捉え方は、様々だと思います。私は、人間って面白いな、と自分の事も他人の事も思える事が自己肯定感に繋がっていくのではないかと思うのです。

具体的に、自分の体験例をあげると、私は幼い頃から絵を描くのが、とても苦手でコンプレックスに近いものを持っていました。しかし、ある日保護者に私の絵をみせると、「あけみちゃんの絵って個性的で、元気もらえるわ～」と言ってくれたのです。私は「そうか、上手い下手ではなく、これが私の個性なんだ。私の絵を見て、元気が出ると言ってくれる人がいる。」その時30年かけて、はじめて自分の描いた絵を受け入れる事ができました。大げさですが、本当にそう感じたのです。自分の書いた絵に対し、初めて自己肯定感がうまれました。ありのままの自分の個性を理解し、受け入れ、それをユーモアと捉え、そこに誇りを持つ。それが、自分も他人も大事に思える肯定感に繋がっていくのではないか？と思うのです。辞書で自己肯定感を調べると「自分のあり方を積極的に評価できる感情、自らの価値や存在意義を肯定できる感情」と書いてありました。しかし、実際どれだけの人が自己肯定感をしっかりと感じているのだろうか？と思うのです。私自身もこの体験から“上手いか下手か！出来るか出来ないか！”の物差しだけで、人と比べて自分を評価していた事に気づきました。評価する事と自己肯定感とは、また違う様に思う私がいいます。皆さんは、自己肯定感とスキルアップをどの様に考えますか？是非、自分に問いながら一度考えてみてください。当日、配布した資料をご覧になりたい方は事務室にありますので声をかけて下さい。